

# 2020 年度さくらねこ無料不妊手術事業

## 団体枠アンケート 集計結果

### さくらねこ無料不妊手術事業とは

どうぶつ基金の「さくらねこ無料不妊手術事業」は野良猫や多頭飼育の猫に対して不妊手術を行い、猫への苦情や殺処分の減少に寄与する活動です。

2020 年度は 3,544 名の個人(一般枠)、35 団体、171 の行政と協働し、約 5 万頭のさくらねこ無料不妊手術を実施しました。

一般枠での無料不妊手術実施数 29,604 頭

団体枠での無料不妊手術実施数 1,973 頭

行政枠での無料不妊手術実施数 17,235 頭

多頭飼育救済枠(行政枠)での無料不妊手術実施数 1,062 頭(うち犬 11 頭含む)

---

無料不妊手術実施頭数 総合計 : 49,874 頭

### 1. アンケート概要

2020 年度に「さくらねこ無料不妊手術事業」に申請があった協働ボランティア(団体枠)に事後調査アンケートを実施しました。

※団体枠とは: 行政枠に属さない団体、NPO 法人、自治会

団体枠登録対象者

団体枠 A=【公益財団法人、公益社団法人、NPO 法人、認定 NPO 法人、一般財団法人、一般社団法人】のうち、どうぶつ基金の地域相談窓口として紹介されること、相談者に対応することに同意した団体

※地方公共団体が運営している施設(公園等)の管理を委託されている指定管理者は行政枠にあたるために含まれない。

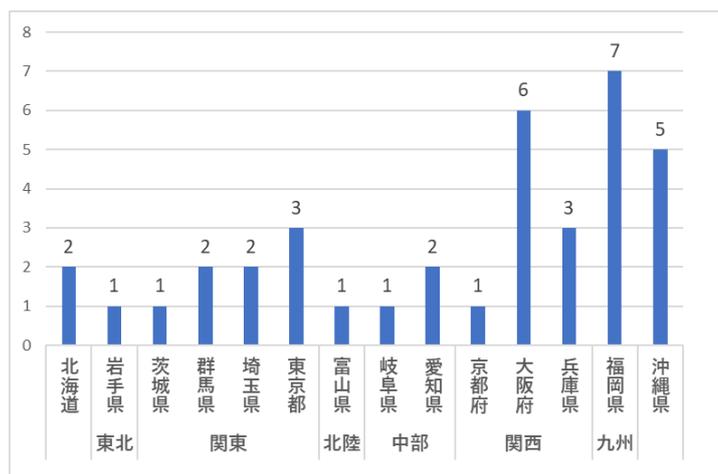
団体枠 B=学校法人、自治会連合会、自治会(チケット使用対象地域は自治会や学校の管轄内の猫に限る)

- 2020 年度さくらねこ無料不妊手術チケット申請団体数 35 団体
- アンケート依頼時(2021 年 4 月 6 日)のマイページ登録団体数 45 団体
- アンケート有効回答数 37 件 (マイページ団体数 45 件中)

## 2. 都道府県別団体数

福岡県の増加が顕著です。  
2019年度は1団体でしたが、長らく登録団体数最多だった大阪府を抜いて7団体となりました。

また、北陸地方で初の団体登録がありました。



## 3. 配布チケット数について

2020年度に配布を受けたチケット数	票数	%
0	6	16.2%
1~10	7	18.9%
11~30	4	10.8%
31~60	5	13.5%
61~100	5	13.5%
100~200	6	16.2%
201以上	4	10.8%

配布されたチケットの使用率	票数	%
100%	7	18.9%
80~99%	14	37.8%
60~79%	6	16.2%
40~59%	4	10.8%
20~39%	1	2.7%
1~19%	0	0%
使わなかった	5	13.5%

73%の団体が60%以上の使用率でした。

#### 4. 猫の実態

さくらねこTNRをした猫は行政に公式に認められた地域猫ですか	票数	%
はい	6	16%
いいえ	31	84%

行政に公式に認められた地域猫が、昨年度の7%からほぼ倍増の16%でした。

団体がエサやりなどの世話をしている外猫の数	票数	%
0	9	24%
1	0	0%
2～5	9	24%
6～10	3	8%
11～15	3	8%
16～20	4	11%
21～30	2	5%
31～50	1	3%
51～80	1	3%
81～250	4	11%
251～500	1	3%

#### 5. さくらねこTNRを実施した猫の変化

TNRを実施した地域の猫に関して(複数回答)	票数	%
子猫の出産が減った・ほぼゼロになった	33	89%
猫の性格が穏やかになった	20	54%
さかり声、ケンカが減った・ほぼ無くなった	29	78%
尿臭が激減した・ほぼなくなった	15	41%
猫の健康状態が良くなった	18	49%
その他	0	0%

89%が「子猫の出産が減った・ほぼゼロになった」と回答。また、苦情の原因にもなる猫同士のケンカやさかり声が減ったと、半数以上が回答しています。

TNR後の猫の数について	票数	%
猫の数が減った	23	62%
猫の数は変わらない	14	38%
猫の数が増えた	0	0%

昨年度に続き、「猫の数が増えた」を選択した団体はありませんでした。繁殖を抑える TNR の効果があらわれています。

## 6. さくらねこTNRを実施した地域住民との関わりの変化

地域住民との関わりの変化について(複数回答)	票数	%
住民の理解が得られた	20	54%
苦情が減った	21	57%
餌やりさんのマナーが改善された・意識が向上した	21	57%
協力してくれるひが増えた(できた)	26	70%
地域の人に感謝された	24	65%
猫を可愛がってくれる人が増えた	16	43%
その他	2	5%

アンケート結果からは、TNR 後に地域住民との関わりが少しずつ好転していることが分かります。また、70%が「協力してくれるひが増えた(できた)」と回答しており、団体の活動を目にすることが、猫の問題を自分事としてとらえる1つのきっかけになっていることがうかがえます。

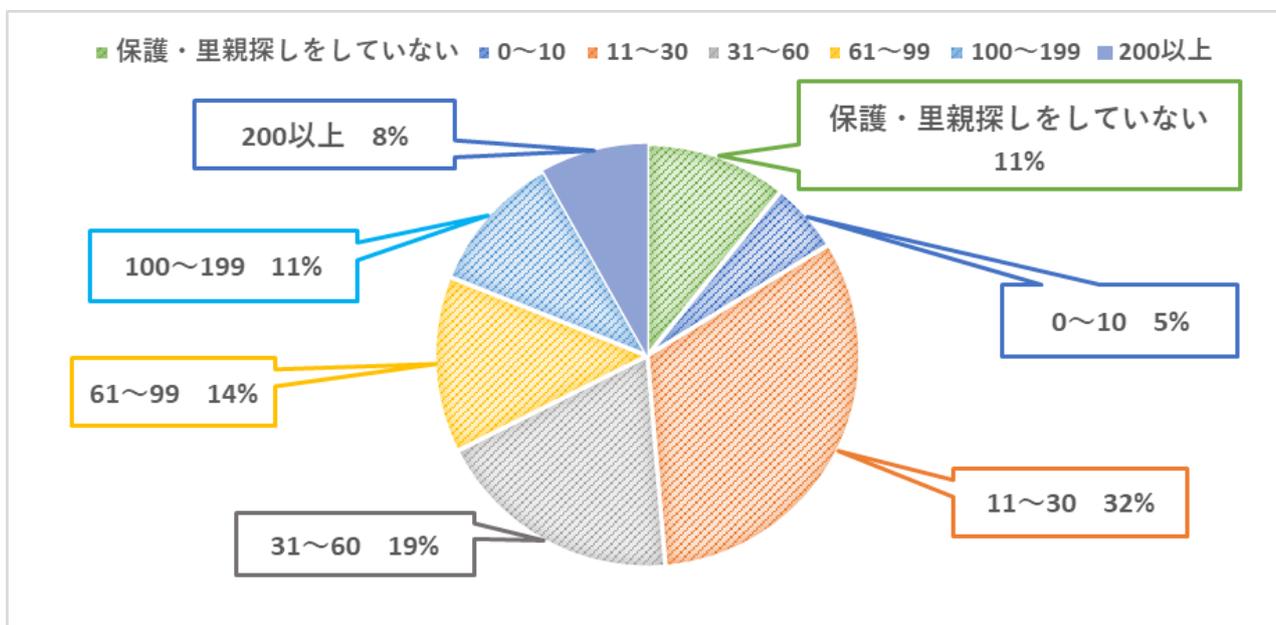
その他を選択した団体からは、「地域猫として可愛がられるまではいかないが、地域住人から嫌われていた野良猫が、いても気にしないくらいには変化した」という報告がありました。この報告はとても重要です。社会には猫が嫌いな人もいます。そのような人たちが、「嫌いだけれど、そこに猫がいてもよい」と考え方を変えてくれるだけでも大きな前進です。

住民と猫ボランティア(団体)の関係は	票数	%
良くなった	11	48%
変わらない	12	52%
悪くなった	0	0%

## 7. 猫の保護や里親探しの実態

猫の保護および里親探しをしていますか	票数	%
はい	33	89%
いいえ	4	11%

過去一年間に保護、里親探しをした猫の数	票数	%
保護・里親探しをしていない	4	11%
0～10	2	5%
11～30	12	32%
31～60	7	19%
61～99	5	14%
100～199	4	11%
200以上	3	8%



33 団体で合計 2,423 頭の猫の保護、里親探しをしました。

飼っている(保護中を含む)猫の数	票数	%
0	3	8%
1	0	0%
2～5	2	5%
6～10	5	14%
11～15	2	5%
15～20	3	8%
21～30	2	5%
31～50	10	27%
51～80	5	14%
81～100	2	5%
101 以上	3	8%

## 8. 今後の課題

今回の課題や問題(複数回答)	票数	%
人手不足	28	76%
資金不足	31	84%
捕獲がうまくできない	14	38%
行政との調整	14	38%
地元地域との調整	23	62%
その他	2	5%
特になし	1	3%

## 9. 飼い猫の捕獲について

2020 年度の本事業で飼い猫を捕獲した事があった	票数	%
はい	6	16%
いいえ	31	84%

アンケート回答者 37 団体のうち 6 団体(16%)が、飼い猫が捕獲機に入ったと回答しましたが、手術まで至った例はありませんでした。

## 10. ピックアップコメント

- どうぶつ基金さま、さくらねこサポーターのみなさま、いつも多大なるご支援有り難うございます。  
とある商店街を中心に過酷な環境で生きる野良猫たち。事故や虐待も多く、生まれた小さな命は大きく成長することも叶わず無惨に消えていきます。尊い命を守るため、またこれ以上かわいそうな猫を増やさないため活動を始めました。  
実費での TNR には限界があり(保護猫もたくさんいます)、継続の難しさがありますので発行していただいているチケットは本当に有難いです。これからもご支援いただいている皆様の気持ちも乗せ踏ん張り活動してまいります。
- 皆さまのご寄付のおかげで、65 頭の猫の避妊去勢手術を行うことができました。手術後は地域猫として近隣住民の方々に可愛がられています。糞尿の被害やオス猫同士のケンカが減ったと報告を受けており、この制度を利用でき大変ありがたく思っております。どうぞ今後ともご支援よろしくお願い申し上げます。
- この事業に巡り合えたおかげで、野良猫の不妊手術ができ、不幸な地域猫の数を減らしてゆくことができます。本当にありがとうございます！
- 市内のある大きな団地で、全頭(約50匹)ののら猫をどうぶつ基金様のチケットで不妊手術することができました。このような大がかりな数の手術ともなると、かなりの額になります。しかし、どうぶつ基金様の無料チケットによって、大規模な TNR 活動もできるようになりました。感謝の念に堪えません。
- みなさまのおかげで野良猫を地域猫にし、地域で見守る活動をさせていただいております。感謝しかございません。不幸な命を出さないようこれからも地域に密着して TNR を続けていければと思います。
- 2月に初めてのさくらねこ活動を行いました。活動資金も無いに等しいなかで、どうぶつ基金の無料不妊手術チケットを活用できたことに感謝申し上げます。これからの活動に弾みをつけることができました。ありがとうございました。
- どうぶつ基金さまにご寄付いただいている皆様のおかげで、不幸ないのちを増やさないための活動に集中することができます。心から感謝申し上げます。ご寄付いただいた皆様の思いを大切に、今後も TNR の重要性、完全室内飼いの徹底、責任ある餌やり、見守りを地域のみなさんに周知、理解いただくよう今後も尽力して参ります。

## 12. 総括

- 2020 年度は大規模な多頭飼育崩壊のニュースが多かったように感じます。どうぶつ基金への相談も増加傾向にあり、2020 年 11 月には、160 頭を超える犬の多頭飼育救済支援を実施しました。

アンケート結果からも、37 団体中 15 団体が多頭飼育崩壊に関する相談を受けたと回答しています。このなかには、行政と連携し、行政からどうぶつ基金の多頭飼育救済枠を申請したケースも含まれています。団体が自力で救済を行ったケースでは、平均して年間で 50 頭程度、なかには年間 200 頭を超える支援を行った団体もありました。

また、相談中に音信不通になる、相談者の主張が一貫せず対応に苦慮しているという報告もありました。個人の権利の問題や相談者が精神的に不安定になるなど、多頭飼育救済にはトラブルがつきものです。2020 年度に環境省が公表した「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン」では、官民を超えて連携することの重要性が記されています。命を奪わずスムーズに解決するためには、行政の力を大いに利用することが重要です。

- アンケートに回答した 37 団体中、行政に認められた地域猫活動地域で活動している団体は 6 団体、割合でいうと全体の 16%でした。昨年度より倍増してはいるものの、従来型の地域猫活動がいまだに浸透していないことが表れています。

- 住民との関係性においては、TNR 後「悪くなった」と答えた団体はありませんでした。昨年同様、「変わらない」が 52%となっており、一般枠のアンケートと同様の結果です。行政や自治会の担当者に TNR の知識がない、もしくは猫の問題に無関心である地域でトラブルが起こりやすいという声もありました。

その一方、TNR の実施前に区長や行政に相談し、事前に案内チラシを配布するなどの活動を行った団体では、地域住民への周知が行き届き、捕獲作業の時に暖かい言葉をかけてもらったり、その後も猫に関する相談を受けるなど良好な関係が築けているようです。あきらめず、根気強く TNR の必要性を説くことで、「地域猫の認知度が上がり、TNR が進むにつれて住民の方が協力してくれるようになった」「どうぶつ基金のポスターなどを活用して“さくらねこ”のことを知ってもらえると、猫嫌いな人でも理解をして下さることが多いです。TNRをきっかけに、地域住民が話し合う機会が増えたとも聞きました」という嬉しい報告が届いています。

- これまで登録団体数最多だった大阪府を抜き、福岡県が 7 団体で最多となりました。九州地方では、TNR への関心が高まっており、ボランティア団体が活発に活動しています。このような背景から、2021 年度の新たな試みである「TNR 地域集中プロジェクト」の実施場所として、福岡県と宮崎県が選ばれました。九州地方の TNR 事情を大きく前進させるには、この事業で成果を上げることが求められます。